

やらされている意識から、自ら取り組む姿勢への変革をめざした取組

プロフィール

地域

県の浜通地方ほぼ中央に位置し、人口約2万人の町の西側、阿武隈高地に位置する。天王山を中心に五山の山並み、この五山を水源として流れ出る清水は、浪江町の貴重な水資源になっている。

学校

津島中学校は、昭和22年創立、生徒数43名、学級数3学級、教職員16名。少人数のメリットを生かした指導を進め、「生きる力を求めて学ぶ」生徒の育成に努力している。

PTA

会員39世帯の保護者で構成され、教養委員会、生活整備委員会、体育厚生委員会の組織がある。とてもまとまりがよく、年2回の奉仕作業をはじめ各種PTA行事等には、全会員が参加している。

1 実践の概要

子どもたちは、TV、ゲームやパソコン、携帯電話などの情報メディアに対しては、好んで自ら取り組んでいるが、家庭学習や手伝い、起床・就寝時刻を守ることなどについては、親や先生に言われてやらされると感じている傾向が強い。津島中学校の保護者は、子どもの将来のため、くましい自立に向けて、生活リズムを自分自身で組み立てていくことができるようにすることがとても大切なことだと考えている。

そこで、津島中学校PTAでは、保護者と学校が一体となって、子どもの生活リズムを整えるための取組を平成十九年度から進めてきた。

特に、起床・就寝時刻を子ども自身が守ることができるようになることや朝食を必ず取るようにする取組を進めてきた結果、朝食欠食0運動では、地区で表彰を受けることができるまでに至った。そこで、今年度は「やらされている意識から、自ら取り組む姿勢への変革」をめざした取組を展開し、子どもたちの将来のたくましい自立に向けた取組を進めている。

2 活動の概要

(1)平成十九年度の取組

○学校保健委員会への参加により実践事項を共有化
起床・就寝の目標時刻を決めて取り組むことと朝食を

必ず取ることに ついて、生徒、保護者、教職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師との話し合いのもとに実践事項の共有化を図った。

○欠食〇運動の推進

学校におけるテーブルマナー教室（年一回）、バイキング給食（年三回）の実施と家庭におけるマイ弁当作り（年三回）の実施により、食の大切さを体感させてきた。保護者は生徒からその感想を聞いて、感想や意見を学校に寄せた。

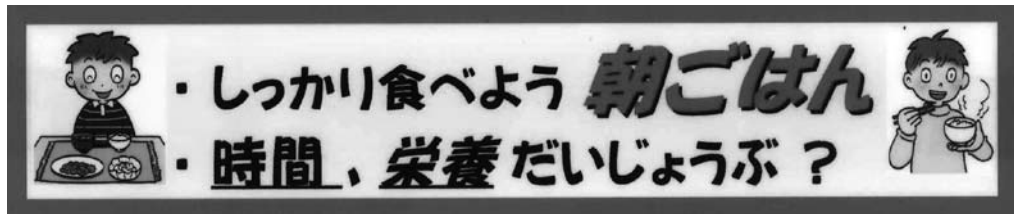
○食育の各家庭への啓蒙

食育推進ステッカーの各家庭での掲示、メタボリック症候群予防の計測ひもの各家庭への配付により啓蒙を図ってきた。

（2）平成二十年度の取組

○地域保健委員会への参加による地域を挙げた取組の推進

子どもを取り巻く地域の保健環境を整えることを目的に「地域保健委員会」を開催し、保育所、小・中学校の教職員、保護者、生徒、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の参加による生活リズムや食に関する認識の改善に関する話し合い



食育推進ステッカー

を持ち、子どもの生活リズムを整えるための地域全体の環境づくりに取り組んできた。

○学校における食の教育の推進

テーブルマナー教室（洋食一回、和食一回）の実施、バ



地域保健委員会

イキキング給食の実施（年二回）、マイ弁当日の実施（年三回）食育標語の募集と優秀作品作成者の表彰などにより、食の大切さを生徒、保護者とともに体感できるようにした。

○各家庭における取組の推進

アンケート調査の結果から、子どもたちの取組がうまくいっていない五つの項目から「生活上五つのポイント」を設定して、保護者会などの場で確認した。その上で、各家庭での実践事項を五つの中から三つを選び、そ



バイキング給食



生徒手作りのマイ弁当



テーブルマナー教室

の実践状況について、週二回カードに記録し、親子で話し合いを持つようにした。その結果を学校に提出し、各家庭での取組の様子をまとめて、全家庭に配付し、実践を紹介し合うようにした。

※「生活上五つのポイント」

「やらされている意識から、自ら取り組む姿勢」
への変革をめざして

〈生活向上五つのポイント〉

- 1 就寝・起床は自分から
- 2 目覚めの五品、朝ご飯
- 3 清潔感のエチケツト
- 4 進んで役立つお手伝い
- 5 上手に過ごす余暇時間

○PTA会報による各家庭への啓蒙

PTA会報の発行により、各家庭へ取組について知らせると同時に実践を呼びかけた。

3 活動上工夫した点やその効果

○津島中学校だけでなく、津島地区にある保育所、小学校

の保護者や学校医、学校歯科医、学校薬剤師などと合同で課題を共有した地域学校保健委員会を組織して、話し合いを持ったことにより、地域ぐるみで子どもの生活リズムの改善や食育への取組を図ることができるようになりつつある。

4 実践の成果

○保護者も子どもも自分の家以外の家庭における実践を紹介し合うことにより、各家庭における実践の共有化が図られ、それぞれの家庭における実践の幅が広がってきた。

○保育所、小学校と実践の目標や内容を共有したことによ

り、地域の保護者の間で話題として取り上げられる姿が見られるようになってきた。

5 今後の課題

○保護者同士で子育てに関する情報交換を今後も継続できるようにPTA活動を展開できるように努めたい。

展 望

子どもたちの基本的な生活習慣を身につけさせるため、学校と保護者が一体となって積極的な取組を行っている事例である。子どもたちが自ら弁当づくりに挑戦することによる食育への取組や各家庭で取り組む生活向上のためのポイント設定など様々な工夫がなされている。生徒も参加する地域学校保健委員会を通じ、中学校だけでなく保育園・小学校との連携による地域ぐるみでの取組となっており、今後の益々の発展を期待する。